

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 「みと好文カレッジ運営審議会」
- 2 開催日時 令和6年7月30日（火） 午前10時00分から午前11時15分まで
- 3 開催場所 水戸市総合教育研究所2階 研究室7
- 4 出席した者の氏名
  - (1) 委員 櫃本真美代，マーサー川又，勝山万里子，西海純子，川井洋子，桑名実，小磯重隆，飯尾真由美，小松崎良仁
  - (2) 執行機関 林栄一，小林雅史，菊池精一，卜部英俊，久保田純平
- 5 議題及び公開・非公開の別
  - (1) 令和6年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策について（公開）
  - (2) 令和6年度みと好文カレッジ事業実施計画について（公開）
  - (3) その他（公開）
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数 0人
- 8 会議資料の名称
  - (1) 令和6年度第1回みと好文カレッジ運営審議会
  - (2) 令和5年度みと弘道館大学市民センター事業実績一覧（別冊）
- 9 発言の内容

**委員長** それでは、議事に入らせていただきます。  
本日の案件につきましては、全て公開とさせていただきますが、よろしいでしょうか。  
それでは、はじめに(1)令和6年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策について、事務局から説明をお願いします。

**執行機関** ((1)について、資料に基づき説明。)

**委員長** ただいま事務局から説明がありました(1)について、御意見や御質問等がございましたら、お願いします。

**\_\_\_委員** 前回の審議会でも一言申し上げさせていただきましたが、「みと好文カレッジ」であるとか、運営方針にある「みと弘道館」、主要施策にある「東湖塾」、「好文塾」、という言葉、国体を支えてきた水戸のキーとなる言葉が、大変多く盛り込まれておりまして、これは教育の場とすると絶対外せない言葉と感じています。一方で、こ



施計画について、事務局から説明をお願いします。

**執行機関** (2)について、資料に基づき説明。)

**委員長** ただいま事務局から御説明いただきました。御意見、御質問等ございましたら、委員の皆様からお願いいたします。いかがでしょうか。

\_\_\_\_**委員** 「新任職員研修」についてお伺いしたいのですが、パッと見た感じ、講座の作り方や廻し方、その講座における注意のような研修が多いように思います。新任ということなのですが、社会教育についての基礎的な知識は、そもそもあるという前提なのでしょうか。というのも、主要施策に「生涯学習の基礎となる社会教育の知識を深める研修や」と書いてあるのですが、今回の事業実施計画の中には、見受けられなかったのです。具体的に言うと、例えば、新任職員の方は、既に社会教育主事資格や社会教育士、相当のものを持っているのか否か、それによっても変わってくると思うのですが、その点についてお聞かせ願えればと思います。

**執行機関** 新任職員は、社会教育主事等の資格は持っていないので、そういった社会教育についての基礎的な研修につきましては、4ページのアの「新任職員の研修」の(ア)の「職員研修の中の生涯学習の推進について」というところで、みと好文カレッジが講師となりまして、1時間程度、運営資料というものを参考に、特に社会教育や生涯学習について、書かれている資料に基づいて、基礎的なことを説明しております。

\_\_\_\_**委員** 1時間程度だと、ちょっと不足かなと正直思います。やはり「社会教育とは何か」という基本的なことが無い中で学習講座を行ったとしても、受講者の学びとそういった地域の繋がりがっていうものが、イメージできないのではないかなと思うのですが、その点はいかがでしょう。

**執行機関** 集合研修で1時間程度研修した後、訪問研修という形で、新任者のいる市民センターにこちらから出向き、そこでまた復習として、1時間半から2時間程度の新任者の研修を行っているところではあります。\_\_\_\_委員の御指摘のとおり、ちょっと時間的には足りないかなと感じていますので、8月からの訪問研修の際に、また研修を進めていきたいと考えております。

\_\_\_\_**委員** 全国的に社会教育の立場が弱いのは重々知っていますが、ただ一方で、誰でも資格が取れるということで社会教育士の人気も出ていますし、地域づくりとの絡みというところで、盛り上がっている所は、盛り上がっていますので、ぜひ、そういったことを含め、やはりされた方がいいのかなと思います。

要望としては、やはり「社会教育とは何ぞや」、っていうものに、大きく時間を取っていただけると良いのかなと個人的に思いました。

**執行機関** 時間はかかってしまうのですが、各年度で1人、市民センターの所長を対象として、社会教育主事の資格を取得できる体制を整えているところです。

**委員長** 今の御質問の件で、「東湖塾」の事業内容としては、市民センターと連携を取りながら、「市民センター職員の力量を高めるための研修会を展開している」ということかと思えます。

実際のところ、会計年度任用職員の方は、出入りが多いということもありますので、メインとしては、今回のこの研修は、会計年度任用職員の方たちのファーストステージな研修を重点的に市民センターで要望されたのかなと思います。

私が質問するのもなんですが、市民センターの職員で新任の方は、いなかったのでしょうか。

**執行機関** 所長がおります。所長は職員です。

**委員長** 所長が参加しているということなのですが、所長と会計年度任用職員の人が同じ研修内容というのもちよっと理解が難しいのかなと思うのですが、コミュニケーションを取っているということに近いのかなと思っています。

この辺は、なかなかみと好文カレッジだけではできない、市民センターの要望と、それに応えるということが出てくるのだと思うのですが、今日の冒頭の\_\_\_\_委員の発言もそうだと思いますが、まず、その基礎のところもやはり、担当の方が理解をするということが非常に重要なことであるかと思っておりますので、また、これは重ねて、次に向けての検討という形をお願いできればなと思っております。

他にどうでしょうか、事業計画について御意見等ある方いませんか。

ちよっと立場上、私が言うのもなんですが、私からよろしいですか。

「プログラミング講座」は、20組の定員に対して63組も応募があったということで、非常にこれは盛況で良いのかなと思います。ただ残念ながらキャパシティの問題もあるのですが、今後の計画として、もう少し枠を広げるのか、また検討が必要なのかなと思います。

おそらく、国及び茨城県としても、この「デジタル化」というテーマは非常に多いですし、皆様の中には、私より詳しく御存知の方もいると思うのですが、小学校も今、情報の科目があるのですよね。

そういうことを考えると、もう基礎的なところは社会のニーズもありますので、もっとやりたいと考える親及びお子さんもおられると思います。この辺の枠、抽選で残念だよ、ということではなく、今後に繋げていただきたいなと思っております。

**執行機関** 今回は、午前10組、午後10組で合計20組なのですが、10組とした理由につきましては、講師から10組程度しか受け持つことができないと言われたことと、教材数に限りがあったことがあるのですが、今後については、増やすことを前提に講師と相談しながら検討したいと思っております。

**委員長** 大学もそうなのですが、プログラミングするというものの他に、そのデータをどう活用していくかというの、国も県も悩みというか、どうしても情報というプログラムとは申しませんが、プログラムを組むと、理解がより深まるということだと思うのですが、いろんな情報のツールはあるけどそれをどう生かしていくかというね、そんなところも、もしもこういう教材に合わせて、検討できれば、ニーズが非常にあるのかなと感じております。

また、もう一つ、「ほっとひといきママたいむ」の方も25名希望して残念ながら抽選ということなので、抽選は仕方ないことですが、初めからの定員を増やすとなると、例えばこの定員を30人としてしまうと、未達だということになるのですが、計画した定員の枠としては、2割3割の増員はできるような、器と講師の御理解というか、もちろん、定員なら定員でも仕方ないのですが、やはり要望が多い時に、ちよっと10%多かったから10%を抽選で駄目だよとするのではなくて、ある程度、多少の枠であれば、受け入れられるような、計画ということも、御検討いただくと良いのかなと思っております。

「プログラミング」の方は教材があるから難しいのですが、どうでしょうか。

**執行機関** 「ママたいむ」の方は、託児があり、託児のボランティアさんの人数もあります。人数が増えれば、増やすことができると考えられますので、「えくぼ会」という託児ボランティアを増やす努力をして、定員を増やすことを検討していきたいと思えます。

**委員長** 託児のスペースもある程度、必要ですね。詰め込んだなって思われるといけませんから。なかなかそういう絡みの状況もありますので、単純ではないのかもしれませんが、せっかく御要望があるということですから、ある程度、受けられればありがたいかなと思います。御検討をよろしくお願ひいたします。

他にどうでしょうか。御意見、御質問等ありますか。

\_\_\_\_ **委員** 今の「プログラミング講座」ですが、講師の方のキャパというお話でしたが、その講師を広げるといふ観点からですね、私、昨年度まで水戸工業で、学校司書を務めて参りました。学校図書館がハブになって、色々な教科の内容を繋げるような形で、活動をしていたのですが、水戸工業の情報科においては、プログラミング講座というものも持てる力がありまして、実は、内原のイオンでプログラミングの体験を、夏とか冬とかに、生徒たちが出前でやっていたりしますので、地元の資産というような、県立高校ではありますが、地元の教育力を付けることで、学生、生徒たちも、小学生に教えるということ、また別な力が付いていくと思えますので、ここは連携の可能性を探っていただければ、お互いにありがたいことかなと思えますので、御提案させていただきます。

**執行機関** 情報提供ありがとうございます。

昨年度、茨城高専の生徒さんに講師をしていただきましたので、水戸工業さんにもやっていただければ、とてもありがたいです。子どもさんも年齢が近いと、質問をしやすく、去年も充実した時間になったのではないかと考えています。

\_\_\_\_ **委員** 学校の方を講座の会場としていただければと教室もありますし、教材もありますので、全然不可能ではない、前向きになる話ではないのかなと思えます。

**委員長** 工業高校の生徒さんや高専の生徒さんが、講師を務めていただければ、生徒さんの学習も進むと思うけど、実は講師として教えている高校生、高専の学生さんも良いですね。二つがおいしい。

\_\_\_\_ **委員** 大学入試の自分の経験ってということの枠の中にも入るかと思えます。今、大学入試が大変多様化しておりますので、どのようなことを高校時代経験したかという、そういうことに対しても無理なく、自分の実践したこと、それから子どもたちの反応というものも、力になっていくと思えますので、非常にこういう生涯学習の活動は、学校の教育活動と繋がるものではないかなと思えますので、ぜひ、御検討いただければと、お互い皆が良くなると思えます。

**委員長** そうですね。元々キャリア的に言ってみても、子どもたちが、先生から教わるっていうと自分の勉強ですが、ちょっとお兄さんお姉さん、先輩の学生さんだったりすると自分のキャリアビジョンが重ねられるので、自分の将来像みたいなものが、子どもたちにも見えるので良いのかなと思えます。

進行しながら私があまり意見を言っははいけないのですが、せっかく、この 63 組の応募があつて、結論はあまり良くないけど、演習をしてももらわないとこの本当

の良さは分からないけれど、もしも抽選漏れした方たちに、ちょっと会場の隅になるけど、見学だけならできますよ、みたいなことを、もしもできるならば、逆に不満足が高まるっていうマイナス面もありますが、それでも、来年、今回見学した人は、また応募してくださいということで、自分が手動かしてやらないまでも、その勉強している同世代の人たち、教える先輩たちを見るだけでも、すごく、非常に刺激になるのかな、というふうに感じました。

ほかどうでしょう、御意見等ございませんでしょうか。

\_\_\_\_委員 ちょっとした疑問なのですが、「水戸市訪問型家庭教育支援事業」で、訪問方法の「全戸訪問」に小学校がありますが、この小学校は、どのように決めているのでしょうか。前年度と今年度、城東小学校と同じだったので。

執行機関 学校長会と相談をしているのですが、「訪問型家庭教育支援事業」の中で、「訪問型家庭教育推進協議会」という組織があり、その委員さんから、毎年度学校を変えるのではなく同じ学校に行っても良いのではないかと、という御意見をいただいたところもあり、こちらの意見を踏まえまして、今回、城東小学校を選定しています。

委員長 平等に色々なところを回るってことはよくあるのですが、一つ「パイロットモデル」のようなものを育てていくと、やはり全体像が良くなるということでは、継続して同じところに、声をかけて、非常に枠が広がっていくという効果を、試しながら、というとなんですが、必要な方法かなと思います。

執行機関 支援員さんが10名で、働いている方が多いので、約50世帯程度、2校合わせて50から60世帯しか訪問できないというのが現実であり、そのような1年生の人数を考慮して選定しております。

委員長 ほかに御意見等ありますか。

\_\_\_\_委員 先ほど定員の話が出たのですが、もちろん、できる、できない講座はあると思うのですが、昨今は、オンラインとか動画配信で、その抽選漏れした方とか定員オーバーした方の対応をしているのですが、もちろんその演習系だとできない部分も多々あるかと思うのですが、その辺の状況っていかがなのでしょう。

執行機関 まだ、そこまでのことは実施しておりませんので、今後、そういったことができるかどうか、検討して参りたいと思います。

委員長 過去に比べると、ハード的なことでやりやすくなっていることもありますけど、今度は、動画を撮られる方たちのOKもあるとか、細かいところに配慮しなきゃいけないことはあるとは思いますが、会場に行かなくてもそういうのを見たいな、というニーズが、多分、非常に多くあるのかなと思います。

それでそれを見た人が、やはり翌年に具体的にやりたいという応募に繋がっていく、という好循環も考えられるのかなと思います。

他どうでしょうか。

\_\_\_\_委員 \_\_\_\_委員の御質問にちょっと関連してなのですが、12ページの「全戸訪問」、2年経っていると思うのですが、これ「アクション」そのものだと思うのですが、その結果として、どういうアンケート結果が来ているのか、非常に気になるところです。

「生涯学習」というテーマと「子育て」というのはどのぐらいリンクしているのか、子育ては水戸市の存続に関わる問題ですので、城東地区に限ったことといっ

ても、「全戸訪問」して、様々な意見を伺っていると思いますので、こういった意見があったのか、非常に気になるところでありますし、もしそういうのがあれば、教えてください。

**執行機関** 意見というより、こちらから情報提供をしていることが大多数なのですが、「子育ての悩み」や「小学校生活での不安」、そういったものの話が主なようです。

去年は、城東小学校から、訪問した後、再度この事業に1件相談申込みがありましたので、若干ですが、行った成果はあるのかなと思います。

詳しい話につきましては、\_\_\_\_委員が支援員さんなので、実際の意見を聞けると思うので、よろしいでしょうか。

**\_\_\_\_委員** 昨年度、城東小学校の学区を担当させていただきました。実際に、御家庭に直接訪問するという形なのですが、やはり初めて会う方ですので、玄関先でいきなり自分の子育てに対する不安とかを、心から吐露してくださる方っていうのは、正直言って、やっぱり少ないです。

でも、この実施している「訪問型家庭教育支援事業」ですが、カードを作っておりますので、今度、困ったことがあった時には、ここに相談してくださいね、っていうある意味、そういう広報も兼ねた活動と考えておりますので、成果はあったかなと思います。それで、その後、先ほど事務局の方からもありましたが、再度の訪問希望があり、先日来ていただいた方ということで、2人で行ってきたのですが、その後の悩みや、また新しい悩みと、この間のことはこんなことで解決しました、とかって、たくさん、お話いただけましたので、成果はあるのかなと思います。

先ほど申し上げたとおり、やはり初対面の人に、なかなかっていうところもあると思うのですが、こういう窓口ありますよ、っていうことをお知らせするだけでも全然違うのかなと考えているところですので、ぜひ、続けていけると良いのかなって思っております。ちょっと説明不足なところもあると思うのですが、以上です。

**\_\_\_\_委員** 本当に子育てというのは、水戸市の自治体としての存続に関わる問題で間違いないんです。ちょっと余談ですが、皆さん御存知のとおり、つくば市は、今ずっと人口が増加しております、25万人を超えてきております。水戸市は、27万人をついに割り込んでおりまして、数年以内に人口が、つくば市に逆転されるのはもう目に見えている。

でも、その中で本当に大問題なのは、年代別の構成比でして、単純に25万人という頭数ではなくて、つくば市の場合は、子育て世代の人数が多い中での25万人なんです。水戸市は、シニア世代が極めて多い中での26万人なんです。これはもう、滝壺に入る手前の段階にきてて、止めることはできません。

ですから、子育て支援としては、生涯学習課としての責務とちょっとずれるかもしれないのですが、この、項目の中に「子育て支援」っていうワードが入っているのであれば、これはもうパフォーマンスとかそんなレベルではなくて、子育て中の保護者の方の意見、本当にキーワードになる言葉って、もしかしたら、結構出ているのかも知れませんが、もうぜひともしっかりと酌み取った上で、このみと好文カレッジの中で、その答えを出せるようなことかどうかちょっと置いておいて、他の部署に連携を図ってでも、やるべき大問題の一つだと思いますので、せっかく「全戸訪問」をして、直接の声を聞いているのであれば、ぜひそういう結果の共有とか

も、今後していただければ良いなと思います。

**委員長**

よくよく考えてみると、このみと好文カレッジも市民センターもどこかに集まってくださいということで、市民センターに行ったり、「出前講座」に行くというのはありますが、この「全戸訪問」は、全戸ということになると迷惑がられることもあるかもしれませんが、来てください、とか、よろしければどうぞ、ではなくて、こちらから行くっていうことにアプローチしているというのは、ちょっと改めて、なかなか頑張っているなという気がします。

そこから、来てくれる方の御意見もあれば、こちらから伺ったからこそ、色々ヒアリングできることも今の御意見のとおりあるかと思っておりますので、今後の施策に生かして、いければよろしいかなと思っております。

**委員**

「全戸訪問」の効果というところですが、民生委員の方たちとか、そういう別なネットワークの方と、情報共有しているのかどうか、どれぐらい考えているのか。

この「全戸訪問」の大きな目的と、民生委員とか、ほかのネットワークがそれぞれあれば、これはこれで生涯学習課の観点からだよ、ということであれば、それはそれで良いのですが、やはり予算の金額であるとか、そういうことを考えますと、結果の共有であるとか、これからに向けて、そういうことも可能に変えたほうが良いのかなと思っておりますので、お伺いします。

**執行機関**

民生委員さんとは共有してないのですが、みと好文カレッジ及び支援員さんで相談した結果の共有のため、毎月ケース会議を開催していて、そこに子育て支援課のケースワーカーにも同席してもらうことで、共有しています。

また、内容によっては、水戸市保健所の専門の方にも情報を共有しているところ です。

**委員長**

来ていただく場合には、ワンストップ制度って作りやすいのですが、今度行くとなると、その共有するのは、なかなか難しい課題があると思います。

ほかにどうでしょうか。よろしいでしょうか。

**委員**

1点、「子育て支援講座の開催」ということで、「パパといっしょに夢らんど」と「ほっとひといきママたいむ」の対応についてお聞きします。

この2つの講座の受け入れとしては、例えば軽度の自閉症のお子様とか、そういった障害がある方の受け入れは、どのような対応をされているのか。伺ってもよろしいでしょうか。

**執行機関**

今までは、そういった方の申込み自体が無いのですが、もし、申込みの時に、何も書かれていなければ、多分そのまま受けてしまいますので、来た際に、何らかの対応をするしかないと考えています。

また、電話で問合せが来た際は、その状況を確認しながら、受け入れを考えると 思いますが、まだ実際のところ、来ていない状況です。

**委員**

私自身も絶賛子育て中で、4人子どもがいるのですが、真ん中2人が軽度な自閉症ということで、特別支援学級に通っておりまして、あれちょっと違うのかな、みたいな所が見えてくるのが3歳くらいで、ちょうどこの講座の受け入れ対象の年齢 でしたので、そういう時に、ちょっと違うけど、連れて行っても良いのかなと思 います。あと、それなりに共有するところが、もちろん、管轄が変わって別にあ りますが、その子の将来を考えると、この「ワークショップ」があつて、ちょっとそ

の「アート遊び」の方に行けるのかなとか、そういったその希望を持つのに、何かちょっとこう、受け入れてますよ、みたいなもちろん、大々的に謳う必要はないと思うのですが、そういったところを考慮していただけると、私も体験者として、その子どもたちの将来を探せるきっかけになるのかなと思ひまして、そういうところを御検討いただければと思ひました。

**執行機関** 「ママたいむ」は、結構小さい方ばかりですので、まだ症状が出る前の方が多いと思ひますが、「パパ」の方も実際は見ていると、多分、今までもそういった方がいたと思ひますが、情報が入っていないのとパパと一緒にしたので、結構大丈夫だったのかなっていうところがあります。現状は、ほぼ受け入れていると思ひますが、今後も電話で問合せがあつても、相談しながら受け入れていこうと思ひます。

**委員長** ちょっと私からも今の件についてコメントさせていただければと思ひのですが、キーワードって言い方ちょっとあれなんですけど、「合理的な配慮」と言われることがあります。

今年度、4月から企業もその「合理的な配慮」が法律で義務化になっています。ですので、色々このみと好文カレッジの事業においても、今、御意見いただいたとおり、そういう相談の問合せがあつた時に、先ほどのプログラミングもそうですが、こういう教材だからできませんよ、ということではなく、過度な負担が無い限りは、配慮する必要があります。

それは、対話をしながら、「求められていることに対し、配慮することがやらねばならないこと」になります。これ、何が言いたいのかっていうと、準備していただいたのがこのラインだとしたら、このラインができるならOKだけど、できないのなら駄目ですよ、というのではなくて、受け入れられるラインはここですが、個別に合理的な配慮をして、できないこともあるし、できることもあると思ひるので、過度な負担までは出来ないけれど、少しぐらいの、何とか配慮できるものならば、受け入れていく、ということかなと思ひています。

なかなか難しい部分もあります。では、誰が対象者で、誰に配慮するんだということになると、お医者さんの診断書はあるのですかとか、手帳を持っているのですか、みたいな話もありますが、そのような「医学モデル」じゃなく、これ、いわゆる「社会モデル」と言われていますが、御本人の要望があれば、その診断書を持って来いとか、そういうこと無しに、やはり合理的に配慮していくということかと思ひます。

色々な事業を実施するにあたり、この辺、我々全員含めて、ちょっと勉強をしながら、やれるような形で進めていければなと思ひております。活発に御意見をいただきました。どうでしょうか。よろしいですか。

**委員** 私自身、水戸市民になって3年目で、この子育てのところが気になるところでして、やはり子育てというところ、2、3歳児や未就学児というのが、多かつたのかなと思ひのですが、小学校に上がってから様々な問題を抱えている保護者の方も沢山いると思ひます。

やはり、自分自身、コロナ禍になって、小学校の保護者同士の関係性も希薄になってきているのかなと思ひますし、相談するところも無く、子育てネットワークとしても研修会は開いてはいるのですが、大規模なものだったりして、そういう集ま

る場では、ただ、お話を聞くところが中心になってしまっています。

この審議会のように小規模で集まれば、多分、その中でコミュニティが生まれて、保護者同士が、ちょっと会話してとなる場にもなるのかなとは思いますが、そういう小学校に上がっての、そういった場があるのかどうかというと、今、働くお母さんが増えておりますし、平日はなかなか難しいのかなというところで、私もやはり平日は仕事をしているので、もう関係ないというところがやはり多いので、週末の開催を今後検討していただけるのか、お話を聞かせていただければと思います。

**執行機関** 小学生の講座となると、みと好文カレッジで開催しているものとしては、「生涯学習サポーター協働企画講座」における家庭教育の中で、「親子講座」という講座しか開催しておりません。

また、各市民センターにおいても、夏休み期間の宿題である「絵画教室」や「書道教室」程度しか開催していないと思いますので、先ほど御発言にあった「親の意見交流会」みたいなものが、多分、今のところ少ないと思いますので、ちょっと御意見を参考に、今後考えていきたいなと思います。

**委員長** ちょっと私も伺って、\_\_\_委員からお話いただいた前半の部分、奥深いと思います。このコロナはまだ心配ですけど、コロナ期間、やはり人との交流ができない、っていう5年間があって、子育てをしているけれども、今、子どもも小学校に上がったけれど、この5年間、人との繋がりが、多分すごく少ない。

茶化しているつもりはありませんが、友達がいない、っていうか、できないんですよ。そういう環境が、多分この5年間あった影響が、今、若しくはこれから出てくるとも限らないと思いますので、そこを少しサポートできるような施策ということを考えていくことも非常に重要なニーズがあるのかなと思います。

結構、そういう子育てにおいても、孤立化、個別化してしまっていて、声を出せない方、潜在的にコロナということも影響であるのかなと思いますので、この辺も検討しながら、今後の施策を考えていければなと思います。

大学でも中学高校と全くそういう活動をやらなかったのではなくて、やるなど言われた生徒も多く、僕みたいな年になると人生分の5年くらいの話ですけど、やはり子どもたちにしてみると、まだ10歳、20歳分の5年間は、非常に大きな影響です。それに伴い、その親御さんの方もなかなか相談できる人がいない、ということもあったのかなと思います。

**\_\_\_委員** 今の子育ての話ですが、水戸の中で子育てサークルやそのようなクラブは、どのくらいあるのですか。若しくは、その定期講座を機に親御さんが集まって、サークルに繋がるようなことはあるのでしょうか。

**執行機関** 定期講座は各市民センターが開催していますが、平日の日中が多く、参加者もやはり高齢者が主になっているところがあります。そこら辺も課題の一つで、市民センターに若い人を呼び込もうということで、夜間や土日開催も検討するように指導はしているのですが、まだ、進んでいない状況です。

**委員長** 活発な御意見ありがとうございます。

それでは続いて、(3)、その他に移りたいと思います。事務局から何かありますでしょうか。

**執行機関** その他は、今回ありません。

**委員長**

新しく任期が、今年度スタートということで、色々御意見もいただいたところか  
と思います。用意された議題の方、以上で全ての議題が終了いたしました。委員の  
皆様には円滑な進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。